

ほっと大正まちづくり協議会ニュース

2021.3

(H) 本気モードで (O) おもしろい (楽しい) (T) 取り組みを!!

No.57

事務局 大正地区公民館 (TEL 26-3982)

令和2年度は、新型コロナウイルスに大きな影響を受けた年となりました。本協議会も、予定していました「大運動会」や「ほっとヨイ!ヨイ!夏まつり」、「いきいき地域づくり交流会」が中止となり、総会が書面での開催となったのをはじめ、ワーキンググループの会合なども、予定していたようには開催ができませんでした。

また、実施できた事業も、感染拡大防止への配慮が必要となり、様々な変更等を行い、皆様のご協力を得てはじめて実施することができたものです。

現在も、今後の感染の状況は見通せません。来年度の事業実施も心配されると思いますが、実施の際にはご案内いたしますので、皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

ほっと大正まちづくり協議会

視点をひっくり返して考えてみよう!

ほっと大正まちづくり協議会 会長 加柴 茂



昨年のことですが、『農業は化ける。ここまで来たスマート農業』と題して菖蒲では勉強会を開催しました。

私たちが暮らす大正地区は昔から農業を生業としてきた地域です。しかし、生産者の高齢化と後継者難は急速に進み、近い将来、耕作放棄地の増加が懸念されています。

私たちがその当事者の一人ですが、視点をひっくり返して農業問題をとらえ、この地域にチャンスは潜んでいないのか。中学生、高校生と一緒に勉強してみたい。中高生にとっては自らの将来を考えるうえでの参考になるものとして、我々大人にとっては世代を越えて若い人たちと地域の未来を語る場としたいとの思いが込められた勉強会でした。

まもなく、進学、就職で大勢の若者が鳥取の地から離れていきます。

「これまでの教育は古里(故郷)を捨てる教育

でしたね。」、親や学校から「勉強して都会の良い大学に行って、大企業に入れ」「帰ってきても何にもないんだから」、「受験勉強偏重の教育が都会の担い手を育て、東京一極集中と地方の過疎を助長した。教育が地域衰退を促進させたともいえるのではないか。」とは「L(ローカル)の時代」の連載の中で隠岐島前高校を取材した山陽新聞の問いかけです。

進学して都会で学び、身につけた知識と能力をもってUターンし、故郷を豊かにする。《地域の担い手育成》という教育の原点に立ち返ってみることで、この地域のまちづくりにも展望が開けるのではないかと思います。

視点をひっくり返して考える勉強会を子どもたちに仕掛けていきたいものと考えます。



何が見えます。グラス? 2人の顔?

令和2年度の主な事業

夏休みの宿題一緒にしませんか

8月18日(火)・21日(金) 《大正地区公民館》

今年度は、地域の学校との連携にも取り組みました。

夏休みの学習の場づくりや地域の人との関係づくりの機会となればと考え、初めて実施したものです。

子どもたちが地域に愛着を持ち、健やかに育つような環境づくりにも取り組んでいきたいと思ひます。



地域の皆さんには、登下校の見守りをはじめ、コメ作りや梨栽培の指導や支援、学校の環境整備などにご協力いただいておりますが、今後ともこうした取り組みは大切なことと考えております。今後とも皆さんのご支援ご協力をお願いします。



大正地区 総合防災訓練

11月15日(日) 《大正小学校体育館》



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当初9月6日(日)に予定していた総合防災訓練を、“感染症がまん延している状況の中での避難所の開設や運営”として実施しました。



これまでのように多くの皆さんにご参加いただくことが難しかったため、自主防災会長、区長、防災リーダー等の方に限定しての実施となりました。

また、9月29日(火)に、訓練についての検討会及び研修会を開催しました。研修会では、鳥取市の担当者から「総合防災マップ」や避難所開設等について説明を受けました。



まちづくりグラウンドゴルフ大会

11月8日(日) 《大正小学校校庭》

地域の皆さんの親睦を図り交流を深めるとともに、健康づくりにも役立てていただくため、気軽に参加できるスポーツ大会として開催しました。

